蚊帳の生地を生かした商品 海外へ

専務取締役 丸山 勝弘さん

薄くて丈夫な蚊帳（かや）生地を生かし、台所の布巾をはじめとした家庭用品や工業資材の製造販売を行っているのが、天理市長柄町にある丸山繊維産業株式会社だ。創業から91年の今年、次世代のものづくりで海外展開する「匠（たくみ）」企業として、ジェトロ（日本貿易振興機構）からお墨付きをもらった。自社ブランド「ならっぷ」は、エコやオーガニックの意識が高い海外で新たな活路を得ている。代表取締役の丸山欽也さん（63）と二人三脚で歩む、専務取締役丸山勝弘さん（58）は「世界中に自社商品を置いてもらえることを目指しています」と意気込む。

Made in 奈良

天理市　丸山繊維産業株式会社

ジェトロの支援事業「TAKUMI NEXT（タクミネクスト）2021」の「匠」企業に選出された同社。海外の展示会には平成25（2013）年度から年に2、3回出展してきた。「昨年、コロナにより海外でのイベントが軒並み中止。その中では動けないということで、オンラインを使って認知度を上げて拡販につながればと思い、応募させてもらったんです」と話す丸山専務。

「現状でアメリカ2社、南アフリカ1社の計3社と9月の終わりにオンライン商談会をやりました。リアルタイムでお互い顔を合わせ、ジェトロの通訳も入りながら商談をしました。商談が決まるかどうかはそれからの話です。個別に1社ずつ3回しました」と目を輝かせる。

昭和5（1930）年、専務の祖父にあたる丸山三二氏が奈良市西城戸町に創業した丸山商店が前身。蚊帳の生産機能を持っていなかったため、縫製して京都西川や大阪西川に納める仕事をしていた。その後、父の代に現在地を買い、昭和35（1960）年に蚊帳の一貫生産工場を設け、自社生産を始めた。

蚊帳は虫よけのため、寝床を囲むように吊り下げて使うテントのようなもの。約1㍉の粗い織り目の薄い生地が特徴だ。「奈良蚊帳」として順調な歩みを続けてきたが、下水道の整備や網戸、クーラーの普及に伴い、昭和40（1965）年を境に蚊帳産業は次第に衰退していった。

そこで選んだ道が、日紡（現ユニチカ）との取引。農作物を覆って保護する寒冷紗（かんれいしゃ）などの遮光遮熱用の産業資材づくりだ。目合いが蚊帳とほぼ一緒の織物で、そちらにシフトを切った。車のシートの補強素材や建物の屋上用防水補強シート、洗車後に使う給水スポンジの補強布などにもチャレンジした。

丸山専務は「ユニチカの仕事をずっとやっておりまして、自社ブランドの用途開発が始まったのが平成2（1990）年。包装資材の『マルラップ』というお花屋さん向けのギフト包装には、1㌢ぐらいの目合いに色を付けました。うちは染色もできるので、染色加工して一貫生産していきました」と話す。

そして、「マルラップ」に続く生活雑貨の第2の自社ブランド「ならっぷ」事業がスタートしたのが、平成17（2005）年。奈良市のならまちに直営店「蚊帳の夢 ならっぷ」を開店した。デザインを凝らした蚊帳生地の和風商品がずらり居並ぶ。

現在、平成25（2013）年度からスタートした海外事業が軌道に乗りつつある。「海外では、ほとんど使い捨てのキッチンペーパーなどが主流。ごみの分類になっていたのですけど、布巾は繰り返し使えるので、エコじゃないですか。そういった日本の文化を展示会で伝えながら、徐々に売上はアップしていってると思います」と自信をのぞかせる。

自社ブランド「ならっぷ」の布巾などに脚光
今年のジェトロ「匠」企業として選出

自社ブランド「ならっぷ」の蚊帳織り商品

蚊帳織りのウオーキングタオル

加えて「海外はリサイクルやオーガニックなど、エコの意識面では相当高いのです。日本の場合、意識はしてるのですけど実際に値段が上がってくると、やっぱりやめとこうか、というのが多いと思います」とも。

機能のある素材を使っているというのが、同社の一番の強み。今は特に消臭効果や温調効果のある備長炭や抗菌、消臭効果のある柿渋を使った商品も海外では人気。「海外に行くことによって、向こうのニーズも分かる。日本の感覚のままで売ろうとすると、ちょっとしんどいと思うのです。用途を向こうでいろいろ聞いて、開発していくというのが大事ですね」と丸山専務。

「世界中の専門店に『ならっぷ』という商標のものが置かれているというのが、一番目指すところです。ちょっといいところのお店でね。海外事業の横文字での『ならっぷ』というのも知的財産の商標を去年取りました。オーストラリア、香港などほとんどのところで申請して取りました」と語る。

いま一番売れているのが、備長炭が入っているリバーシブルの布巾類。商品価格は大き目のサイズで国内では550円。現地ではダブルプライスで2万円。「アメリカのアマゾン（AmazonUS）なんかを開いていただいて、英語で『ならっぷ』と入れると商品が出てきますから、そこで値段はチェックできます。エリア的には北米が一番多く、次がニュージーランド、オーストラリアの順です」と海外展開に意欲的。

普通のタオルの生地と違い、かなり柔らかいため、そのままでは縫製できない。そこで、最初に糊を効かせて、その糊を取ると非常に柔らかくなる。吸水力も増していく。手触りの柔らかさには定評がある。海外には、生地を重ね合わせた商品は皆無に近い。

丸山専務は「もともとオーガニックではなかったけれども、展示会に出ているうちに声を聴いて新しい商品を作りました。それをまた日本でも売るという形。そういうものも結構増えています。つい最近は、女性用のメイクアップパッドです。エコなもので使い回して、洗ってまた使うというのが必要だとニュージーランドからオファーをいただきました。しかもオーガニックなら、なおさら良いということで、製品開発したのです。日本でも今月から販売します。これがうちの中で一番新しいです」と声を弾ませる。

○創業＝昭和５（１９３０）年
○代表取締役社長＝丸山欽也
○従業員数＝35人（パート含む）
○資本金＝１０００万円
○事業内容＝染織整理加工、ギフト包装資材販売
○本社住所＝天理市長柄町６９５
○電話番号＝０７４３（66）１２８２
○ファクス＝０７４３（66）２０３０

https://www.maruyama-seni.co.jp/